横浜市立 阿久和小学校　　学校評価報告書　　（ 令和 元 ～ 3 年度 ）

重点取組分野	令和 元 年度 具体的取組	令和 元 年度 自己評価結果	総括
豊かな心	①特別の教科道徳の充実を図り、年１回以上保護者、地域の方に公開をする。また、道徳推進教諭が中心となって、研修を行う。②YPアセスメントを年2回以上実施し、児童の実態や変容を把握する。その結果をもとに授業を行う。たてわり活動の充実を図り、自己有用感を高めていく。	①道徳の授業は、年間の指導計画に従って計画的に進められている。授業参観で保護者にも公開を行った。②たてわり活動が年間を通して充実したことで優しい心が育まれるとともに、高学年の自己有用感の高まりにつながってきている。	B
生きてはたらく知	①「あくわスタンダード」の充実を図り、1年生から6年生まで一貫した指導ができるようにする。②4～6年生は、少人数算数を実施し、個に応じた指導を進める。また、本年度は、算数科を重点研究の教科として取り上げ、児童が主体的に学習にのぞむことができるような数学的活動を研究していく。	①あくわスタンダードに沿った一貫した指導が全職員の共通理解のもと行われ、児童指導につながっている。②支援の必要な児童の目線に立って、授業づくりや環境整備が整ってきている。少人数指導、TT指導、取り出し指導など、授業形態を変えながら取り組んできた。	B
特別支援教育	①配慮が必要な児童の支援について、全教職員で共通理解し、どの教職員も対応できるようにする。また、関係機関との連携を図り、支援の在り方等について理解を深めていく。②個別支援学級児童の実態に応じて、交流を進め、分け隔てのない関係を構築していく。	①配慮が必要な児童について共通理解を図り、チームとして対応を考えることができていた。特別支援教室の立ち上げも行い、学習支援の体制も整ってきた。②個別支援学級と一般級の担任同士で連絡を取り合い、交流内容を考慮した。	A
児童指導	①「あくわスタンダード」の見直しを行い、児童への定着を図っていく。また、保護者への理解を進めるため、学校説明会をはじめ、学校便り等で必要に応じて発信していく。②児童の状況に応じて、朝会や集会で、全体指導の場を設け、学校全体で指導にあたっていることを確認できるようにする。	①児童指導は担任ひとりで対応することなくチームで相談し、解決することができる体制がある。子どもの実態に合わせ、ルールブックの見直しを行いながら指導にあたれている。保護者への理解は今後も継続して取り組んでいく。②朝会での共通理解が有効であった。	A
健やかな体	①食育の授業を実践し、児童の関心を高める。また、健康や食育について、集会等で発信し、日頃の意識を高めていく。②学校保健委員会では、校医や薬剤師を招き、専門的な見地からお話を伺い、児童の保健への関心をもたせるようにする。	①健康や食育に関心をもてるように、集会や掲示等で発信してきた。委員会の活動を通して、楽しみながら学習を進めることができた。②学校保健委員会では睡眠について具体的な活動により、児童の意識が高まった。	A
地域連携	①保護者への学校への関心を高めるために、教育活動に参加できる機会をつくる。また、懇談会等への参加者を増やすための工夫をしていく。②新しい保護者の会と学校との関係を構築し、年間を通して、計画的に支援していただけるような形にする。	①学校・家庭・地域の連携については現状を維持している。学校説明会や懇談会のもち方を見直し、より多くの保護者に来校してもらうための計画を進めている。②本年度より発足した保護者と教職員の会とは、年間を通して互いに協力して活動する体制が整ってきた。	B
教育環境整備	①情報・視聴覚機器の充実をさらに図り、授業への効果的な活用について研修を行う。②校舎内外の環境整備に努め、児童が安全に学習活動が進められるようにする。また、掲示板を活用し、児童の学習の成果が見えるようにしていく。	①情報主任を中心にICT支援員との連携のもと環境が整った。研修によりスキルアップを行いながら、授業へのより効果的な活用に努めたい。②毎月の安全点検により、児童の安全な学習活動が進められている。掲示板の活用は今後も積極的に活用していく。	A
いじめへの対応	①月１回いじめ防止委員会を開催し、全教職員が共通理解し学校の現状を把握できるようにする。また、具体的にどのような対応してきたのか、今後どのように進めていくのかなど具体的に話しができるようにする。②定期的にいじめアンケートを実施して、児童の実態を把握する。	①いじめ防止委員会によって、ブロック間や全職員で共通理解を図れている。また、児童支援専任を中心に、未然防止、迅速な対応が行われている。②アンケートの実施により、児童とじっくり話をしたり、児童理解を注意深く行ったりすることで、実態把握につながっている。	A
人材育成・組織運営（働き方改革）	①低中高ブロックを組織し、必要に応じて連携が図れるようにする。級外教員もブロックに属し、そのブロックの運営に主体的にかかわる。②行事ごとに学校評価を行い、振り返りをする中で、行事の精選を図り、教職員の負担、児童の負担の軽減につながるようにしていく。	①ブロック間での連携が授業や行事等でも多くなり、協力体制のもとに活動を進められた。②これまでの学校評価をもとに、運動会やあくわ博など、見直しを進められた。行事の精選を行い、児童及び教職員の負担軽減が行われた。精選されたことで育てたい力の明確化とモチベーションの向上につながった。	A
ブロック内評価後の気付き	ブロックでの小小・小中での授業研究や職員間の交流を通して、基礎基本を確実に身に付けるための手立てやコミュニケーションを豊かにするための手立ての共通理解が図られてきている。また、授業を見合い、協議会での意見交換や情報交換によって、つながりを意識した教育活動の推進はある程度充実したものであった。今後も、ブロックが設定した9年間での育成を目指す資質能力を共通理解し、「夢の実現に向かって」が達成されるよう、繋がりのある小中一貫教育の推進を行いたい。		
学校関係者評価	子どもたちは、全体的に落ち着いて学習に取り組み、地域でも気持ちの良い挨拶ができている。学校全体で赤青鉛筆を活用して、めあてとまとめを分かりやすく書くことで、子どもたちは今何を学習しているのかが明確になっているので、今後の学力の向上も期待している。何よりも子どもたちが楽しそうに学校生活を送っている姿が見られ、とてもよいことだと感じる。たてわり活動で異学年の子ども同士がコミュニケーションをとり、互いに優しい心を育てている。不登校や特別支援など、社会的問題とも言える状況がある中,子どもたちにとって居場所があり、安心で安全な学校であってほしい。		
中期取組目標振り返り	「わくわくする学校」「チャレンジする学校」を創るために、「あくわスタンダード」を共通理解として、1年生から6年生まで一貫した指導を行うことができてきている。また学習面においては、算数科を重点研究として取り組み、児童が主体的に学習に取り組むことができるような数学的活動を研究することができた。少人数指導、取り出し指導など、個に応じた指導を行える体制が整ってきている。小規模校であることを生かして、たてわり活動を取り入れた行事を行うことができている。次年度に向けては、学校・家庭・地域の連携に向け、学校説明会のもち方を工夫していく。		

重点取組分野	令和 2 年度 具体的取組	令和 2 年度 自己評価結果	総括
豊かな心			
生きてはたらく知			
特別支援教育			
児童指導			
健やかな体			
地域連携			
教育環境整備			
いじめへの対応			
人材育成・組織運営（働き方改革）			
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	令和 3 年度 具体的取組	令和 3 年度 自己評価結果	総括
豊かな心	c1		
生きてはたらく知	c2		
特別支援教育	c3		
児童指導	c4		
健やかな体	c5		
地域連携	c6		
教育環境整備	c7		
	c8		
いじめへの対応	c9		
人材育成・組織運営（働き方改革）	c10		
ブロック内評価後の気付き			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			